

第4学年○組 国語科学習指導案

平成19年○月○日 (○)
授業者 担任 ○○ ○○
在籍児童数 28名

- 1 単元名・教材名 文と文のつながり (光村国語下『はばたき』)
- 2 単元について

小学校での児童の国語力を総括的に捉えて見えてくる課題の一つに、「語彙の不足」があげられる。本学級の児童も、用件や状況を教師に伝える際に単語で済ませてしまったり、筋道が曖昧で全容を理解するのに時間がかかったりすることが少なからずある。教師が言葉を付け加えながら整理することで、自分の伝えたかったことをようやく自覚できる、ということも少なくない。物事の筋道を明確にして伝え合う力の育成と、そのための適切な語彙を習得・活用させる指導が求められる。

本単元では、数ある接続語の中から、順接の「だから」と逆接の「しかし」を中心に引き上げ学習する。両語は、文脈において論理的に考えや意図を伝える効果をもっている。また、両語が相反する意味を表す語であることから、小学校中学年の段階でもはっきりとその違いを理解することができ、文法指導の初期段階に取り扱いやすい題材であると言える。

学習指導要領には、接続語について「文章の論理的な関係を把握する上で重要な役割を果たしている」と示されている。また、「読みの指導の中では、文相互の関係とともに、段落相互の関係を端的に示す手がかりとなるものとして指導することが必要である」とも述べられており、様々な学習場面の中で引き上げ、意図的、効果的に活用する力を育成することが求められている。

小学校で得た接続語の知識は、中学校・高等学校での国語学習において、単語の類別、文の接続関係、文脈や内容の理解などの学習で深められていく。さらには日常生活全般において、筋道を立てて論理的に物事を把握したり、考えを適切に伝え合ったりする基礎力として生かされることになる。

指導に当たっては、接続語の役割やはたらきを確実に捉えさせることと同時に、言葉のもつ面白さに気付かせ、関心を高めていくことが大切と考える。また、授業で得た言葉の力を生きてはたらくものとするために、日常生活での積極的な活用を見越した実践が求められる。

そのため展開においては、できるだけ児童が身近に感じられる例文を多く用い、実際の文脈の中でその効果を実感できるようにしていきたい。そうすることで、今後の「読むこと」「書くこと」の学習や日常生活の様々な機会において、接続語を無理なく効果的に活用していけるものと考えている。

3 単元の目標

- ・接続語によって意味や内容に違いが生じるおもしろさに気付き、身近な活用例を見付けよう และสามารถทำได้。 [関心・意欲・態度]
- ・文と文の意味のつながりを考えながら、接続語を使い分けることができる [言語事項(1) オ-(ウ)]

4 単元の評価規準と学習活動における具体的評価規準

	ア国語への関心・意欲・態度	オ言語についての知識・理解・技能
単元 の 評 価 規 準	・接続語によって意味や内容に違いが生じるおもしろさに気付き、身近な活用例を見付けようとしている	・文と文のつながりや伝え手の気持ちを考え、「だから」と「しかし」の接続語を使い分けことができる。
学習 活動 の 評 価 規 準	(1) 身近な出来事から「だから」と「しかし」の用例を、積極的に探し出している。	(1) 「だから」が順接、「しかし」が逆接の表現であることを理解し、文脈に合う接続語を適切に選択している。 (2) 同じ文脈でも、接続語の違いによって、伝え手の気持ちが変わることを理解している。

5 指導と評価の計画

時	主 な 学 習 活 動	学 習 内 容	評価規準・評価方法
1	・例文をもとに、「だから」と「しかし」の意味の違いを理解する。	・「接続語」の役割 ・「だから」と「しかし」の違い ・「だから」と「しかし」の正しい使い方	アの(1) オの(1) ・発言 ・ワークシート ・活動の観察 ・感想
2	・「だから」と「しかし」の両方が使える用例をもとに、つなぎ方による気持ちの違いに気付く。	・「だから」と「しかし」の両方が使える用例 ・「だから」と「しかし」の使い分けによる内容や気持ちの違い	アの(1) オの(2) ・発言 ・ワークシート ・活動の観察 ・感想

6 本時の学習指導（1/2）

(1) 本時の目標

- 接続語による意味の違いや面白さに気付き、進んで用例を探そうとすることができる。
- 文と文のつながりを考え、「だから」と「しかし」の接続語を使い分けすることができる。

(2) 評価規準

ア国語への関心・意欲・態度	オ言語についての知識・理解・技能
○接続語による意味の違いや面白さに気付き、進んで用例を探そうとしている。	○文と文のつながりを考え、「だから」と「しかし」の接続語を使い分けしている。

(3) 展開

学 習 活 動	学 習 内 容	指導・援助（○）と評価の創意工夫（◇）	分
1 本時の学習課題を理解する。	・本時の学習内容の確認	○既習事項の学習を基に「つなぎ言葉」にはどのようなものがあつたかを想起させつつ、本時の学習内容への関心を高める。 《主な児童の反応》 ●とか・つぎに・それから・ですが・でも・けど・だけど ○本時では「だから」と「しかし」の2語を取り上げ学習することを伝える。 文と文のつながりを考えて、「だから」と「しかし」を正しく使い分けよう	3
2 「接続語」の語とその働きを知る。 例文(1) 雨が降りそうだった。 (), わたしはかさを持って出かけた。 例文(2) 雨が降りそうだった。 (), わたしはかさを持たずに出かけた。	・接続語という語句 ・「だから」と「しかし」のはたらきとその違い	○2つの例文を提示し、空欄に「だから」と「しかし」をあてはめさせ、理由をつけて考えを発表させる。 ○児童の発言を受けながら、例示された2文が互いに逆の内容を示していること、内容を伝える役割として接続語が役立っていることに気付かせる。	10

	だから：前の文から当然予想されることが後に続く時や、前の文が後の文の理由になる時に使う。 しかし：前の文から予想されないことが後に来る時に使う。	《主な児童の反応》 ●片方の絵では傘を持っているが、もう一つの絵は持っていない。 ●「だから」と「しかし」が反対になっている。 ●言葉が変わると、意味が変わる。 ●ふつうは持っていく、という時には、「だから」を使う。 ○「だから」「しかし」それぞれの役割について、児童の発言の内容を生かしながらまとめていく。 ○文と文のつながりを示す語を「接続語」ということを伝える。	
3	文と文のつながりに気を付けながら、空欄補充と例文作成に取り組む。 ・「だから」と「しかし」の適切な使い分け方 ・「だから」と「しかし」の適切な使い方 《支援例1：活用例の作成ができない場合》 個の理解の段階を理解した上で、実態に合わせた支援にあたる。 段階1（日常生活に目が向きにくい児童） →ワークシートの例文をもとに、一部の言葉を入れ替えながら書くよう提案する。 段階2（日常から題材を探せる児童） →行事など、最近起きたできごとを想起させ、例文を考えさせる。 《支援例2：接続語の理解が不十分であると考えられる場合》 児童との対話を通じ、書いた意図について説明させ、よりの確な表現方法を提案する。 例1（接続語の関係が理解できていない児童） 5時間もゲームをしてしまった。 ①だから、メガネをした。 ②しかし、ばれなかった。 →①メガネをすることになってしまった（視力が落ちてしまった）の意であると判明。「しかし」の文を、「メガネ」（視力）を手がかりに修正することを提案した。 →②うちのの人に見つかって怒られたか否か、という視点で作成していたことが判明。「ばれなかった」の語を手がかりにして、「だから」の文を修正することを提案した。 →一つの視点やキーワードをもとに、両方の文を作成することで、構造が捉えやすくなることを助言した。	○ワークシートは、学習事項を押さえた上で、活動の直前に配布する。 ○理解の段階を考慮したワークシートを作成し、確実な定着を図る。 接続語の記入（ワークシート①②） →接続語に続く文の記入（③④） →全文の記入（⑤⑥） →活用例の作成（日常化を図る手立て） ○机間指導の中で、個の理解度を把握しながら、つまずきの見られる児童への支援にあたる。 ○「だから」「しかし」両語の、構造上の関係を理解することをねらいとしているので、内容的な理解にとどまっている児童に対しては、より明確に両文の関係が示せる表現を用いて書けるよう促していく。 ◇オの（1）（観察・ワークシート）	17

	例2 (内容面での関係は概ね理解できているが、構造の理解に至っていないと思われる児童) 取っておいたお菓子を食べられてしまった。 ①だから、私は怒った。 ②しかし、私は新しいお菓子を 買いに行った。 →②「新しい物を買えばいいや」と、気持ちを切り替えたので怒らなかった、という意であると判明。 ①の文と、構造的なつながりを明確にする表現として、「怒らなかった」の一語を用いた文に修正することを提案した。	《各段階における児童の反応》 ● (ワークシート：例文二) 「だから」の文ではお皿は割れてしまったのだから、「しかし」だとその反対で、どうなるかな。 ● (ワークシート：例文四) 5時間もゲームをしていたら、普通だったらどうなるかな。 ● (ワークシート：例文五) ヒントがなくても、「だから」と「しかし」の文が書けた。 ● (ワークシート：自由記述) 学校やおうちの生活で、他に文が作れそうな出来事はないかな。 ● たくさん例文を見つけられたよ。	
4 作成した例文を発表し、紹介しあいながら、活用の仕方を学習する。	・ 日常における、接続語の適切な活用の仕方	○ 児童が作成した例文を紹介しあい、多くの活用例に触れさせることで、全体での日常化を図る。 《児童の例文：添付資料参照》 ○ 例文中の「だから」の文だけを発表させ「しかし」の文を全体に予想させる。 ○ 予想したことを発表させ、例文を作った児童の文と比較し、成果を確かめる。 ○ 児童の発言を板書し、それぞれの例文を全体で比較しながら、「だから」の文と「しかし」の文が、反対の関係になっていることを確実に理解させる。	10
5 本時のまとめをし、次時の学習の見通しをもつ。	・ 本時の学習のまとめ ・ 次時の学習の見通し	○ ワークシートの裏面に「だから」と「しかし」を書いた札を印刷しておく。 ○ 「だから」と「しかし」の両方が入る例文を示し、自分にとって適切と思う接続語を選択させ、札を上げさせる。 (例)「一生けん命に漢字の練習をした。 () 85点だった」 ○ 点数を様々な数字に変化させて提示しその都度接続語を選び取らせながら、接続語によって気持ちを表せることに気付かせる。 ○ 次時の学習では、接続語の内容的役割について学習することを伝える。 ◇ アの(1)(観察)	5

7 成果と課題

○成果○

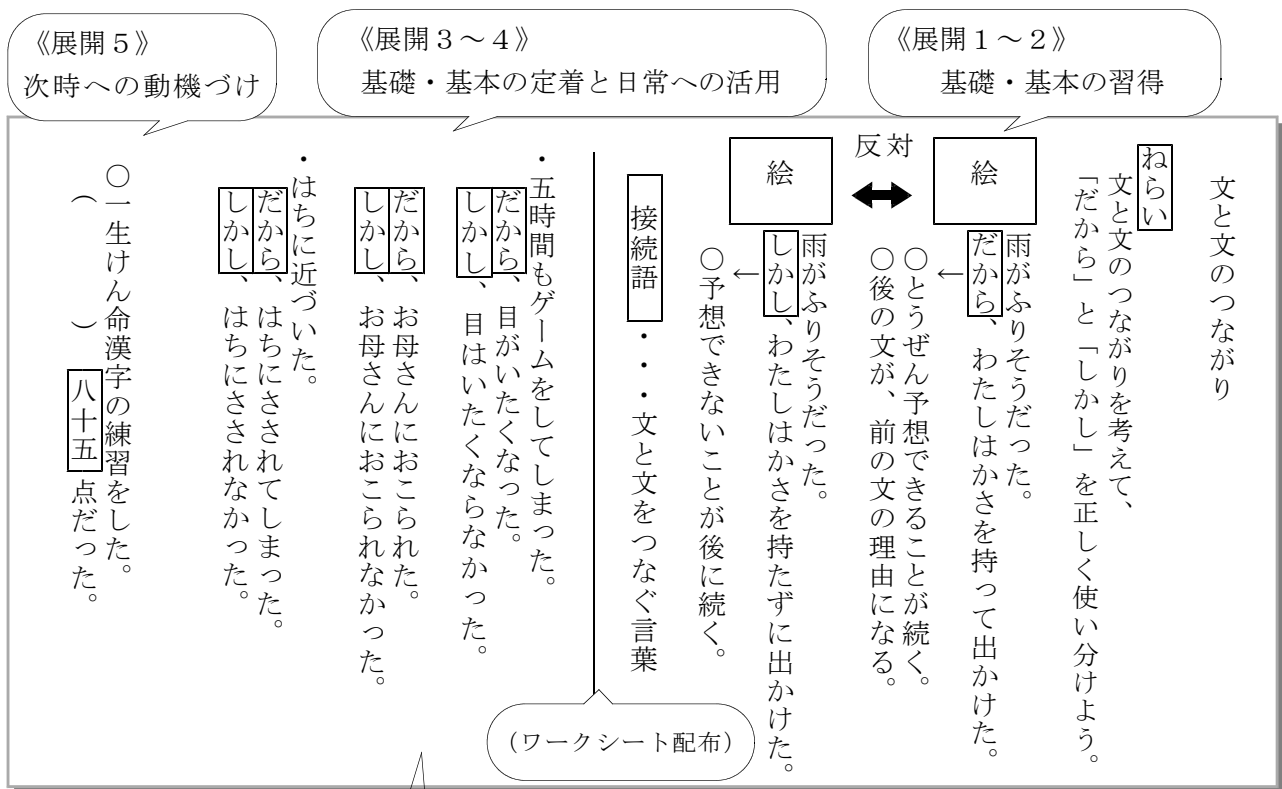
- ・本授業を通して、児童は「接続語」という新しい語彙を獲得し、使い方や役割を知ることができた。
- ・段階を踏まえたワークシートを作成して学習活動に取り組みさせたことで、身近な出来事に目を向け、文例を作成することができた。日常生活における活用の方が身に付きつつある。
- ・さまざまな文例に触れることで「しかし」と「だから」が反対の関係になっていることを理解した。
- ・他の単元の学習においても、文章を読み取る際に、接続詞に着目した読みをし、前後の文が逆接の関係にあることに気付ける児童も増えた。

○課題○

- ・作成した例文の内容から、接続語の関係が十分に理解できていないと判断できる児童もいた。他の児童の作成した文など、多くの文例に触れさせながら、言語感覚を身に付けさせていきたい。
- ・学習したことを日常生活において活用する段階まで高めていくために、事後においても、効果的な活用場面を意図的に捉え、継続的に指導に当たる必要がある。

8 資料

(1) 板書計画



- ①ワークシートの例文五を提示→複数の解答を出し、比較し合う。
→様々な例文ができるが、「だから」と「しかし」の文がそれぞれ、逆の意味を示す文になることに気づかせ、前半の内容の定着をはかる。
- ②自由記述の内容を発表させ、「だから」の文を板書する。
→「しかし」の文を全体に予想させ、作成者の解答と比べ、確かめる。（展開4）

(3) 児童の答案より

ア 構造を理解して解答していると考えられる例

文と文のつながり

名前 ()

☆文と文のつながりに気をつけて、「だから」と「しかし」を正しく使い分けよう

()

○ **だから**

・・・前の文から当然予想できることが後に続くときに使う。
後の文が、前の文の理由になっている。

○ **しかし**

・・・前の文から予想できないことが後に続くときに使う。

☆文と文のつながりをはっきりさせる言葉を、**ぜひ**くづいて使います。

○次の問題をよく読んで、「だから」と「しかし」を正しく使って文をつないでみよう。

一、がんばって漢字の練習をした。	二、お皿を、ゆかに落としてしまった。	三、目にごみが入った。	四、五時間もゲームをしてしまった。
① だから ぼくはテストで百点を取った。	② しかし お皿がわれてしまった。	③ だから わたしは目をあらわなかった。	④ しかし わたしは目をあらわなかった。

ゆかに水がこぼれた。

⑤ **だから**、お皿を、ゆかに落としてしまった。

⑥ **しかし**、お皿を、ゆかに落としてしまった。

⑦ **だから**、お皿を、ゆかに落としてしまった。

⑧ **しかし**、お皿を、ゆかに落としてしまった。

⑨ **だから**、お皿を、ゆかに落としてしまった。

⑩ **しかし**、お皿を、ゆかに落としてしまった。

⑪ **だから**、お皿を、ゆかに落としてしまった。

⑫ **しかし**、お皿を、ゆかに落としてしまった。

⑬ **だから**、お皿を、ゆかに落としてしまった。

⑭ **しかし**、お皿を、ゆかに落としてしまった。

⑮ **だから**、お皿を、ゆかに落としてしまった。

⑯ **しかし**、お皿を、ゆかに落としてしまった。

イ 内容面での理解ができており、構造を意識した修正案を提示したい例

文と文のつながり

名前 ()

☆文と文のつながりに気をつけて、「だから」と「しかし」を正しく使い分けよう

()

○ **だから**

・・・前の文から当然予想できることが後に続くときに使う。
後の文が、前の文の理由になっている。

○ **しかし**

・・・前の文から予想できないことが後に続くときに使う。

☆文と文のつながりをはっきりさせる言葉を、**接続**語といえます。

○次の問題をよく読んで、「だから」と「しかし」を正しく使って文をつないでみよう。

一、がんばって漢字の練習をした。	二、お皿を、ゆかに落としてしまった。	三、目にごみが入った。	四、五時間もゲームをしてしまった。
① だから ぼくはテストで百点を取った。	② しかし お皿がわれてしまった。	③ だから わたしは目をあらわなかった。	④ しかし わたしは目をあらわなかった。

⑤ **だから**、お皿を、ゆかに落としてしまった。

⑥ **しかし**、お皿を、ゆかに落としてしまった。

⑦ **だから**、お皿を、ゆかに落としてしまった。

⑧ **しかし**、お皿を、ゆかに落としてしまった。

⑨ **だから**、お皿を、ゆかに落としてしまった。

⑩ **しかし**、お皿を、ゆかに落としてしまった。

⑪ **だから**、お皿を、ゆかに落としてしまった。

⑫ **しかし**、お皿を、ゆかに落としてしまった。

⑬ **だから**、お皿を、ゆかに落としてしまった。

⑭ **しかし**、お皿を、ゆかに落としてしまった。

⑮ **だから**、お皿を、ゆかに落としてしまった。

⑯ **しかし**、お皿を、ゆかに落としてしまった。

(3) ワークシート (表面) : 展開 3 にて作業直前に配布して使用

文と文のつながり

名前 ()

☆文と文のつながりに気をつけて、「だから」と「しかし」を正しく使い分けよう

()

○

・・・前の文から当然予想できることが後に続くときに使う。

後の文が、前の文の理由になっている。

○

・・・前の文から予想できないことが後に続くときに使う。

☆文と文のつながりは、いろいろな言葉で、

といします。

○次の問題をよく読んで、「だから」と「しかし」を正しく使って文をつないでみよう。

①	がんばって漢字の練習をした。	②	テストの結果は二十点だった。
①	入った。	③	お血がわれてしまった。
②	三、目にこみが	④	わたくしは目をあわねなかつた。
③	落としてしまった。		
④	四、五時間もゲームをしてしまった。		

国語- 10 -

- ・ワークシート（裏面）：二つ折りにし、展開５にて使用

ーかー

ーかー